



実践編：CPU

1.バイヤーの心得、実践交渉術

【実践編：CPU】

今回はCPUについて取り上げたいと思います。

前号の「どこまでがマイコン？」同様、「どこからがCPU」という切り分けの問題もありますが、ここでいうCPUとは

「プログラム格納用のROMが入っていない、CPU+ペリフェラル」

いう定義にしておきます。

CPUとなると、資材/購買部門が選定する可能性が一番低いカテゴリに入ると思います。CPUは、その商品の特徴であったり機能/性能に一番インパクトを与えるデバイスです。その選定に当たっては、開発/設計部隊が一番最初にタッチするカテゴリでもあるため

「これを使いたい、使わないと求められるスペックを実現できない」

と、ほぼ採用が決まった状態で話しが降りてくることが多いかと思えます。

しかし、私が考えるに

「部品選定に聖域はない」

と思っていますし、このようにあとから話しを持って来られ

「デリバリーと価格交渉はよろしく」

と丸投げされても困ってしまいます。

さすがにIntelで決まっていたものをARMに変える、ということは現実的ではありませんし、大きな流れを一旦堰き止め、ガラガラポンで1からやり直し、というわけにもいかないでしょう。

そこでできることは限られていますが、それでもできるだけ早くから関与し、資材/購買としてできることは調べる、そして最終決定時のパラメータのひとつとして検討させる、その上で関係者合意の上で採用デバイスを決定する、という流れに持っていけるようにしてもらいたいです。

資材/購買としてできることは以下のようなものでしょう（価格を除いて）。

- ・ 前工程、後工程所在地
- ・ キャパシティ
- ・ 開発環境（開発ツールの充実度、費用）
- ・ サポート体制（日本でどこまでできるのか）
- ・ 公式リードタイム
- ・ 商流（直販か代理店経由か）
- ・ 市場実績
- ・ そのコアの将来性

特に気にすべき点は、最後に挙げた「将来性」だと思います。

前号のマイコンのときにも書きましたが、この手のものは

「過去資産の流用」

という話が必ず出てきます。

しかし、将来性のないコアを選んでしまうと、過去資産を活かすために能力の足りない、チップサイズの大きい、消費電力の大きいデバイスを使い続けなければならない状況に陥ります。

例えば10年ぐらい前だとVR系やMIPS系、そしてPowerPC系など、様々なCPUが選択肢としてありました。

これらが今ではどうなっているでしょう？

どれも今の低消費電力、そしてデフレの時代についてこれているとは到底思えません。

10年前に今の状況を予測することはかなり難しかったとは思いますが、少なくともその意識を持って調べる、そして合意しておくことはとても重要だと思います。

一番ダメな例は、やはり前号のマイコンのときと同様

「今までこれを使ってきたから次もこれ」

だと思っています。

将来性のないコアを選んでしまったために、パフォーマンスが足りないのに使い続けなければならない、それほど不幸なことはありません。

将来性のないものは、チップシュリンクも進みませんし、新しいインターフェイスも採用されません。もちろん低商品電力化もできませんし、コストも下がらない、とマイナスを引きずり続けることになってしまいます。

幸か不幸か、今はそれほど選択肢はありません。

どこもかしこもARMの時代であり、Intel以外で32bitクラス以上のCPUとなれば大半がARMベースを持ってくると思います。

QualcommのSnapDragon、NVIDIAのTegra、TIのOMAP、、、どれもCPUコアはARMです。

それならそれで、CPUコア以外のところに着目して選べばいいだけです。

利益を生み出す半導体調達戦略-vol.27

<http://p.booklog.jp/book/28878>

著者 : hinoe_uma66

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hinoeuma66/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/28878>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/28878>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.